

令和 2 年 6 月 22 日現在

機関番号：12701

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03609

研究課題名(和文)結婚・出産・育児と就業に対する主観的期待確率の測定とそれに基づく育児支援策の評価

研究課題名(英文) Assessing the child-rearing support policies based on the subjective expectations of young people on marriage, child-rearing, and employment

研究代表者

奥村 綱雄 (Okumura, Tsunao)

横浜国立大学・大学院国際社会科学研究院・教授

研究者番号：90323922

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,600,000円

研究成果の概要(和文)：日本の青年男女が、自分の将来の結婚、育児、就業状態をどのように期待しているかについて、青年男女を対象にアンケート調査を実施し、その結果を分析した。その結果、青年は、将来の結婚、出産・育児、就業状態について、男性と女性がそれぞれ大きく異なった期待を形成していること、子どもを持つ場合、多くの青年女子が仕事と育児の両立が困難になることを予想していること等、日本の家族形成や、就業の状況に関する、多面的で包括的な研究成果を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

少子化と生産年齢人口の減少が続く日本において、女性が就業と出産・子育てを両立でき、男性が就業しながら子育てに参画できる社会を構築することは、最優先の課題である。しかし、男性と女性の間でなぜ仕事内容に違いがあるのか、そして、就職後に女性が結婚や出産・育児を理由にどれくらい離職しているのかといった問題について、研究上意見の一致が見られていない。本研究では、青年男女が、自分の将来の結婚、出産・育児、就業状態をどのように期待しているかについてアンケート調査を実施し、調査結果を様々な角度から分析し、その結果に基づき、政策的含意を導き出す。

研究成果の概要(英文)：Gender differences in pay and occupation persist. Many possible explanations have been offered for these gaps. We have conducted a survey on young men and women to understand the gender differences in people's perspectives for career, job security, and family life. We have discovered distinct gender differences in expectations for them. The results from that survey are striking that already wide gender gaps in preferences and career perspectives are present among the young in Japan. We have also found that both men and women in Japan expect that balancing career and child-rearing would be difficult for them to cope with.

研究分野：計量経済学、経済政策

キーワード：主観的期待確率 結婚、出産・育児 就業 育児支援策

1. 研究開始当初の背景

日本では少子化が進行し、生産年齢人口が減少し続けており、女性が就労と出産・子育てを両立し、男性が就業しつつ子育てにも一層参画できる社会を構築することは、幸福度の高い社会の追求のみならず、これからの日本経済の発展のためにますます重要である。

働く女性や男性のために求められる社会を実現するための環境を整備することは、我が国の将来にとっての必須の課題であるが、職場の現状は、依然、長時間労働や残業が多いなど様々な障害が存在している。子育てにおいても、保育サービスを利用することが難しく、税制や社会保障制度も既婚女性の就労意欲を削ぐことが多い。30代男性における長時間労働の割合は、2割近くに達している。多くの女性が、仕事と結婚・出産との両立に困難を感じており、望むだけの子供の数をかなえていない。しかも、結婚や出産などのライフ・イベントを機に多くの女性が労働市場から退出しており、子育て後に再就職を希望した場合に、希望の仕事や勤務形態で働くことが難しい。

2. 研究の目的

近年、こうした就業と結婚・出産・育児を取り巻く諸問題の実情を分析する研究が盛んに行われているが、就業選択においては、男性と女性の間でどのような違いがあるのか、そして、働き方や家庭生活について男性と女性にはどのように違いがあるのかといった、働き方の根本的な問題については、未だ十分に解明されているとはいえない。

3. 研究の方法

本研究は、日本の男女の若者が、自分たちの将来の仕事や家庭生活について、どのように考えているのかについてのアンケート調査を実施した。

4. 研究成果

アンケート調査の結果を、計量経済学の新しい手法である部分識別の方法を用いて、様々な角度から実証分析を行った。その結果、結婚、出産・育児、就業状態について、青年の男性と女性がそれぞれの互いに異なった期待をどのように形成しているのか、男性と女性の間の仕事の選択の違いはどのように決まってくるのかを明らかにした。

得られたいくつかの結果は下記の通りであり、男女とも多くの若者が、自分たちが将来直面する困難を想定しながら仕事を選択している。

○ 将来の結婚、出産・育児、働き方については、男性と女性がそれぞれ異なる期待を形成している。特に、男性が長時間労働に追われたり、女性が出産、子育てを機に離職することを予想している。

○ 男女それぞれが、自分の将来の収入、働き方、仕事内容等について抱いている期待に基づいて、働き方や家庭生活のあり方を選択している。

○ 男女とも、仕事を選択する場合、その仕事から得られる収入よりも、その仕事の内容が自分にとって好きかどうかという側面を重視している。この傾向は、米国の研究からも得られており、日本においても青年が仕事選択の際に金銭的なことよりも仕事の特性を重視している。

○ 多くの女性が、子どもを持つ場合、仕事と育児の両立が困難になることを、予想している。

このように、日本の家族形成や、就業の状況に関する、多面的で包括的な研究成果を得ることにより、少子化対策や育児支援に有効な事実証拠に基づく有効な政策を構想した。とりわけ、女性が、働きながら子供を持つことができ、仕事と生活のバランスを実現できるようにするための支援策を提言した。

この研究結果に基づいた研究論文を執筆し、2018年9月に開催された人文社会科学系で最大の国際会議である世界社会科学フォーラム（World Social Science Forum, WSSF, 九州大学開催）における日本経済学会の招待セッションにおいて発表した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 白井 恵美子, 小林 美樹	4. 巻 69(3)
2. 論文標題 妊娠知識が出産に対する主観的期待に与える影響	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 経済研究	6. 最初と最後の頁 227-241
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://www.ier.hit-u.ac.jp/Japanese/publication/ER/abst.php?vol=69&no=3&page_s=227	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Takashi Oshio, Emiko Usui	4. 巻 49
2. 論文標題 How Does Informal Caregiving Affect Daughters' Employment and Mental Health in Japan?	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of the Japanese and International Economies	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jjie.2018.01.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Usui Emiko	4. 巻 21(2)
2. 論文標題 Why Wages Do Not Increase Despite the Labor Shortage	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 SOCIAL SCIENCE JAPAN JOURNAL	6. 最初と最後の頁 363-365
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/ssjj/jyy005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Miki Kobayashi, Emiko Usui	4. 巻 15
2. 論文標題 Breastfeeding Practices and Parental Employment in Japan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Review of Economics of the Household	6. 最初と最後の頁 579,596
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11150-014-9246-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Emiko Usui, Satoshi Shimizunani and Takashi Oshio	4. 巻 -
2. 論文標題 Health Capacity to Work at Older Ages: Evidence from Japan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Social Security Programs and Retirement Around the World: The Capacity to Work at Older Ages	6. 最初と最後の頁 219,241
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kobayashi, Mayu, Kobayashi, Miki, Okumura, Tsunao, and Usui, Emiko	4. 巻 5
2. 論文標題 Sharing Housework between Husbands and Wives: How to Improve Marital Satisfaction for Working Wives in Japan	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 IZA Journal of Labor Policy	6. 最初と最後の頁 1, 15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s40173-016-0074-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 奥村綱雄	4. 巻 増刊号
2. 論文標題 識別とは何か	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 経済セミナー増刊『進化する経済学の実証分析』	6. 最初と最後の頁 46,51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Usui, Emiko	4. 巻 12
2. 論文標題 Comment on Availability of Long-term Care Facilities and Middle-aged People's Labor Supply in Japan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Asian Economic Policy Review	6. 最初と最後の頁 113,114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Oshio, Takashi and Usui, Emiko	4. 巻 24
2. 論文標題 Informal Parental Care and Female Labor Supply in Japan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Applied Economics Letters	6. 最初と最後の頁 635,638
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13504851.2016.1217303	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Usui, Emiko, Shimizutani, Satoshi and Oshio, Takashi	4. 巻 67
2. 論文標題 Are Japanese Men of Pensionable Age Underemployed or Overemployed?	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Japanese Economic Review	6. 最初と最後の頁 150,168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jere.12094	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅野早紀, 松山普一	4. 巻 215
2. 論文標題 遺産が子の経済活動に与える影響 : 中高齢者パネルデータを用いた分析	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国民経済雑誌	6. 最初と最後の頁 35,46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sugano, Saki	4. 巻 67
2. 論文標題 The Well-Being of Elderly Survivors after Natural Disasters: Measuring the impact of the Great East Japan Earthquake	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Japanese Economic Review	6. 最初と最後の頁 211,229
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jere.12103	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 7件 / うち国際学会 8件）

1. 発表者名 Tsunao Okumura
2. 発表標題 Gender Differences in Career Choice of College Students in Japan
3. 学会等名 World Social Science Forum 2018（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Emiko Usui
2. 発表標題 Gender Differences in Education and Job Security of College Students in Japan
3. 学会等名 World Social Science Forum 2018（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tsunao Okumura and Emiko Usui
2. 発表標題 Pension Expectations and Household Portfolio Choice of the Elderly in Japan” Japan-Singapore Academic Forum on Ageing
3. 学会等名 Singapore Management University（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Emiko Usui.
2. 発表標題 Public Pension and The Elderly’s Labor Supply” Japan-Singapore Health and Labour Policy Roundtable
3. 学会等名 Singapore Management University（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Emiko Usui
2. 発表標題 Are Japanese Men of Pensionable Age Underemployed or Overemployed?
3. 学会等名 International Conference on Pensions, Insurance and Savings, Universidade NOVA de Lisboa (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Emiko Usui
2. 発表標題 Health Capacity to Work at Older Ages: Evidence from Japan
3. 学会等名 Workshop on Technology and Aging Workforce, Asian Development Bank, Seoul, Korea University. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Emiko Usui
2. 発表標題 Sharing Housework between Husbands and Wives: How to Improve Marital Satisfaction for Working Wives in Japan
3. 学会等名 アジア学会議、日本学会議 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 臼井恵美子
2. 発表標題 日本の労働市場における年金世代男性のさらなる貢献の可能性
3. 学会等名 国立大学附置研究所・センター長会議 第三部会シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 臼井恵美子
2. 発表標題 Breastfeeding Practices and Parental Employment in Japan
3. 学会等名 一橋大学・中国人民大学共催第7回アジア政策フォーラム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Emiko Usui
2. 発表標題 How Does Informal Caregiving Affect Daughters' Employment and Mental Health in Japan?
3. 学会等名 Population Association of America (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Usui, Emiko
2. 発表標題 The Effects of Providing Eldercare on Daughters' Employment and Mental Health in Japan
3. 学会等名 2016 International Conference on Population Aging in Three East Asian Countries Demographic Transformation and Socio-Economic Response of Korea, China and Japan (国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 奥村綱雄	4. 発行年 2018年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 256
3. 書名 部分識別入門	

1. 著者名 菅野早紀	4. 発行年 2017年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 222,247
3. 書名 セオリー&プラクティス 経済政策 (柳川隆, 永合位行, 藤岡秀英編) 第10章 社会保障政策	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	臼井 恵美子 (Usui Emiko) (50467263)	一橋大学・経済研究所・准教授 (12613)	
研究分担者	菅野 早紀 (Sugano Miki) (70755537)	大東文化大学・経済学部・講師 (32636)	